

モザンビーク ナカラ回廊地域農業開発（プロサバンナ事業）

マスタープラン・ドラフト初稿の概要

1. マスタープラン初稿の位置づけ

- 「モ」政府が策定を進める北部地域農業開発計画（マスタープラン）の初稿。
- 農業セクター基本計画「農業セクター開発戦略（PEDSA）」に沿って策定。
- 策定にあたり、日本、ブラジルが「モ」国政府に技術協力を実施。
- これまで実施してきた現地農民組織・市民社会組織との対話の内容を踏まえ策定。
- 本稿をベースにステークホルダーとの意見交換を行い、最終化を目指す考え。

2. ドラフト・ゼロの概要

- 対象地：北部3州（ナンプラ、ザンベジア、ニアッサ）のうち19郡。面積107,002 km²（東北地方+関東地方の面積に相当）、人口430万人、69.2万世帯の農家が居住。
- 目標：目標年次を2030年として、PEDSAが定める年7%の農業セクター成長率を達成し、農業生産量を約3倍、地域の農民の所得水準を1.6倍に向上させることを目指す。
- 基本方針：
 - ✓ 「経済成長」と「社会・生活の向上」のバランスのとれた開発を進める。
 - ✓ 農民主権の尊重と家族農業の主流化を図る。
 - ✓ 伝統的な土地使用权と法的保護手続きの促進を図る。
 - ✓ 「責任ある農業投資の原則」を実践、有効化する。
 - ✓ 農業活性化のため、民間セクターとの連携、民間資金の適切な活用を図る等。

3. 提案計画の概要

●目標達成に向け、32の優先計画事業を提案している。例えば下記事業。

- ✓ **農業生産性の向上**：農業技術支援システム(試験場や普及など)の強化、農業投入材(種子や肥料など)へのアクセス向上、農民が利用可能な金融機能の整備、灌漑の開発(小規模灌漑の導入、既存施設のリハビリ)等。
- ✓ **市場へのアクセスの改善**：流通の強化、農協組織の構築、農産物の付加価値向上、農道の整備等。
- ✓ **土地、自然資源の保護と持続的な活用**：土地使用权の登記推進、民間セクターによる責任ある農業投資の実現、水資源管理・森林資源管理にかかる基礎的調査の実施等。
- ✓ **基礎的な行政サービスデリバリー機能の強化**：農業統計システムの改善、コミュニティ開発事業支援のための能力強化等。

4. 市民社会の懸念事項と対応

●これまで市民社会から提起された下記諸点を計画に反映。

- ✓ **土地収奪への懸念**：本事業の枠組みでは、権利保護の制度が整わない限り、農業生産に係る土地の収用を伴ういかなる民間投資も推奨、支援しない方針を明確にしている。
- ✓ **家族農業の重視**：家族農業の主流化を基本方針に据えている。
- ✓ **ブラジル「セラード開発」の経験の適用**：当初、植生・土壌・言語の親和性の観点で、経験を活用するとしていたが、地域住民の間に誤解が生じたため、本ドラフトではそのような視点は含めていない。
- ✓ **推奨作物の選択**：特に大豆栽培が大規模農業投資、土地収奪、地域に裨益しない輸出志向型農業の代表例として、地域住民から抵抗感を持って受け止められた。他方、大豆は主に養鶏用の飼料として国内消費量が多く、その多くを輸入に頼っている現状、農学的には地域の土壌・植生が大豆栽培に適していることなどを踏まえ、選択肢として取り上げている。
- ✓ **環境・社会配慮**：プロサバンナ事業においては、定められた環境・社会配慮アセスメントを実施している。提案計画では大規模な住民移転を伴う事業や、環境に甚大な影響を及ぼす事業は想定していない。
- ✓ **民間投資の奨励**：農業開発には多大な資金と人材等の育成が必要であり、公共セクターのみでこれを実現することは困難。本計画でも民間セクターの資金や技術を適切に活用する方向性が含まれている。そのため、「責任ある農業投資ガイドライン」の制定、実践も提案計画に含めている。